

東日本旅客鉄道南武線
(谷保駅～立川駅間)
連続立体交差事業

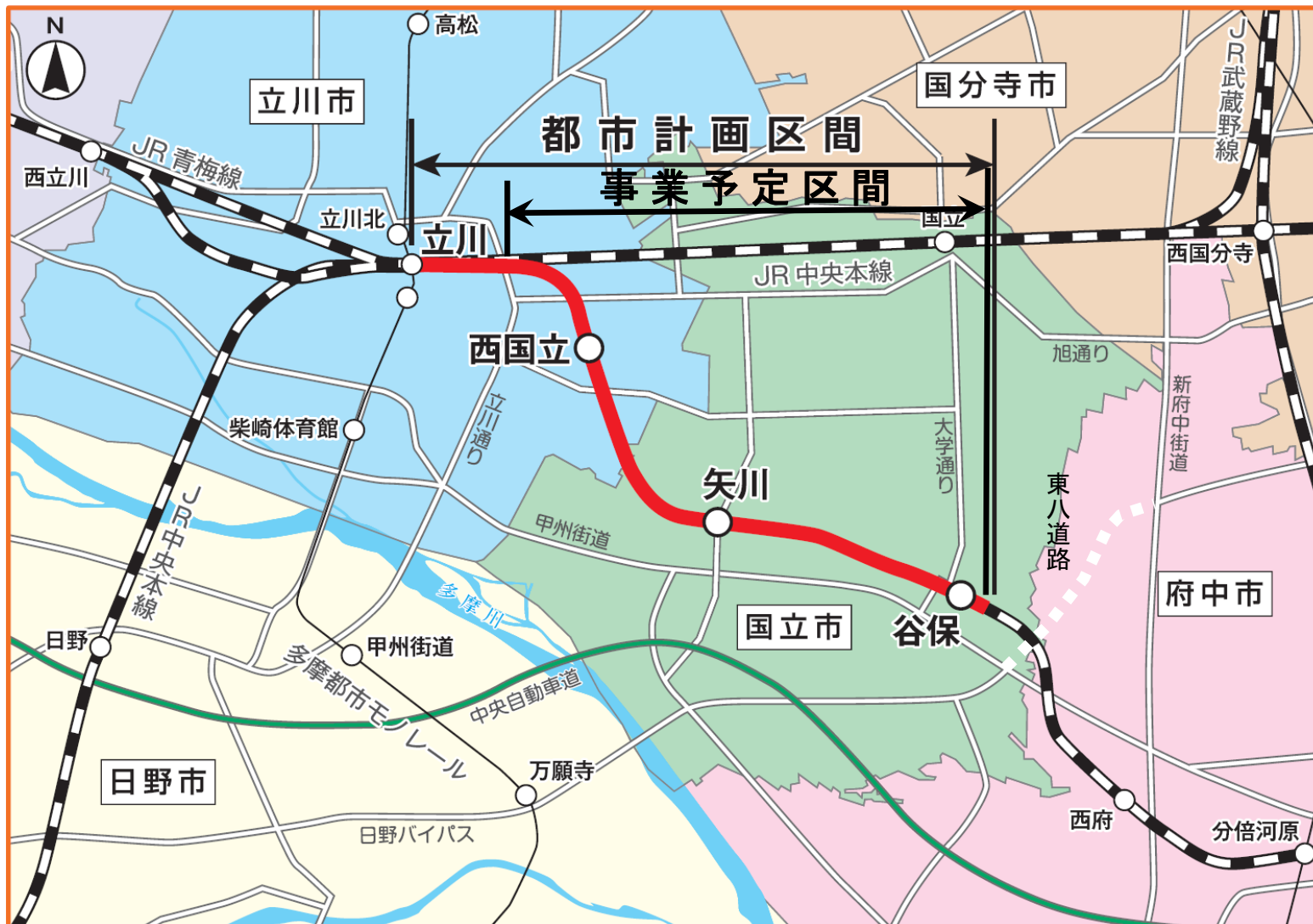
令和5年12月4日(月)
建設局 道路建設部

目次

1.	事業概要	1
2.	社会経済情勢等の変化	4
3.	事業の投資効果	5
4.	事業の進捗状況	14
5.	事業の進捗の見込み	15
6.	コスト縮減等	16
7.	対応方針(原案)	17
8.	事業促進への要望(参考)	18
9.	周辺まちづくり(参考)	20

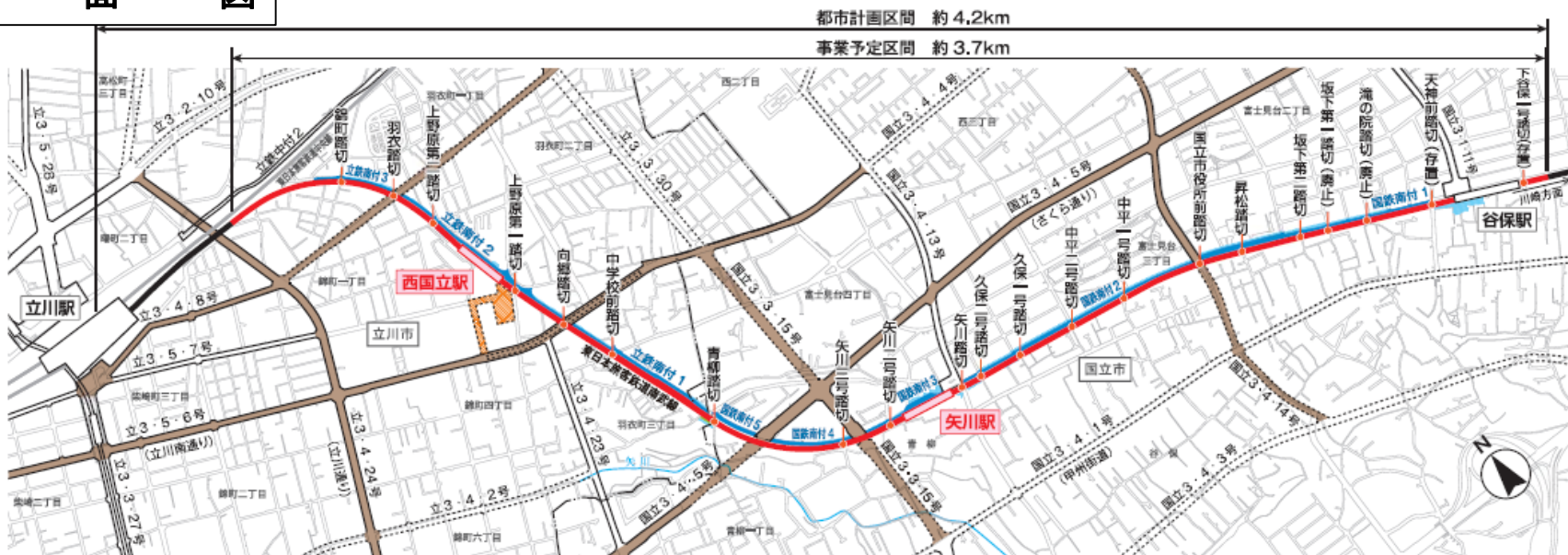
1. 事業概要

位置図



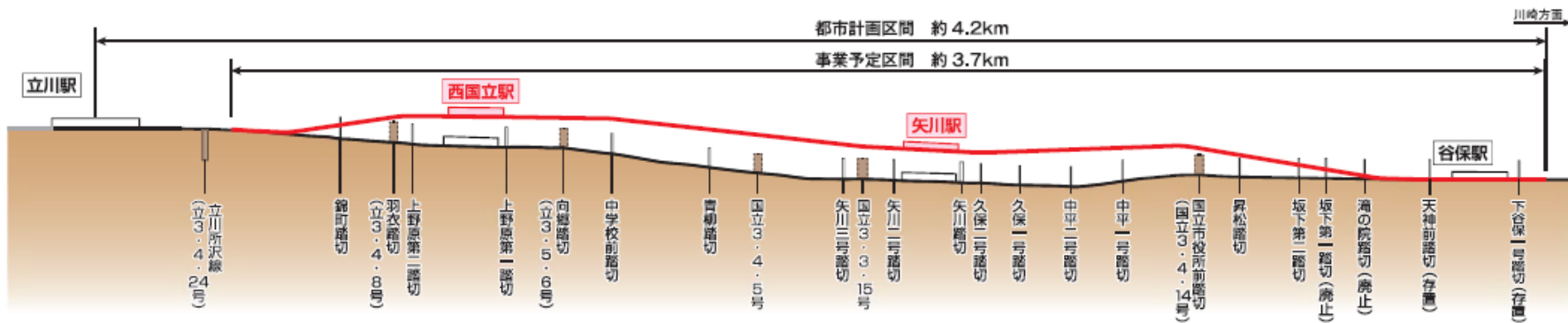
1. 事業概要

平面図



※この地図は、国土地理院長(平24関公第269号)を得て作成した東京圏地形図(S=1:2,500)を使用(5都市基交第563号)して作成したものです。築断製を禁じます。
(承認番号)5都市基街都第93号、令和5年6月12日 (承認番号)5都市基交都第30号、令和5年6月9日

縦断図



1. 事業概要

事業期間

事業着手から13年間を予定

事業の概要

本事業は、JR南武線の谷保駅～立川駅間の約3.7kmについて、鉄道を高架化することにより、19箇所の踏切を除却または廃止し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業である。

経緯

年度	計画等
令和5年8月	都市計画素案説明会開催

2. 社会経済情勢等の変化

ピーク時 1 時間当たりの踏切遮断時間

踏切名称	平成26年	令和元年	(備考)
上野原第一	34分	31分	歩行者ボトルネック
向郷	30分	30分	自動車ボトルネック 歩行者ボトルネック
青柳	38分	41分	開かず
矢川	31分	30分	自動車ボトルネック



向郷踏切
(立川南通り)

関連する他事業等の進捗状況

- ・国立都市計画道路3・3・15号中新田立川線
(立川東大和線)
- ・国立都市計画道路3・4・5号立川青梅線
(新奥多摩街道)
- ・立川都市計画道路3・4・8号立川駅国立線
- ・立川都市計画道路3・5・6号国立昭島線
- ・国立都市計画道路3・4・14号国立砂川線

- 都市計画変更手続中
- 都市計画変更手続中
- 都市計画変更手続中
- 都市計画変更手続中
- 事業化準備中

3. 事業の投資効果

便 益 算 定
フ ロ ー 図

■費用および便益算定の前提
基準年次 : 令和5年度
供用年次 : 令和23年度(想定)
検討年数 : 供用後50年間
社会的割引率 : 4%

■便益の算定

- 移動時間短縮便益(自動車)
- 移動時間短縮便益(歩行者・自転車)
- 走行経費減少便益
- 交通事故減少便益

■費用の算定

- 連続立体交差事業(都市側負担のみ)
- 関連道路整備費
- 道路維持管理

■現在価値の算定

便益の現在価値 (B) 費用の現在価値 (C)

社会的割引率

費用便益分析の実施 (B/C)

3. 事業の投資効果

定量的効果

【事業全体】

便益 (B)	移動時間短縮便益 (a)	走行経費減少便益 (b)	交通事故減少便益 (c)	総便益 (a+b+c)	費用便益比 (B / C)
	704.7億円	54.7億円	30.7億円	790.1億円	
費用 (C)	連続立体交差事業費 (d)	関連道路整備費 (e)	維持管理費 (f)	総費用 (d+e+f)	1.4
	502.1億円	52.1億円	3.0億円	557.1億円	

注1) 費用便益分析マニュアル〈連続立体交差事業編〉(国土交通省 令和4年2月)に基づき分析した。
 注2) 費用(C)の算定は、都市側負担額で算出している。
 注3) 便益・費用については、基準年度における現在価値化後の値である。
 注4) 便益及び費用合計額は、表示桁数の関係で計画値と一致しないことがある。

3. 事業の投資効果

定性的効果

	事 項	説明資料
交通	歩行者・自転車の回遊性の向上	有
	バスの定時性の向上	
くらし	高架下空間の活用による都市機能の向上	有
	市街地分断の解消	
安全	緊急車両のアクセシビリティの向上	有
	通学路の安全性確保	有
環境	自動車交通の円滑化による環境負荷の軽減	
防災	都市防災機能の向上	
その他	関連事業	有

3. 事業の投資効果

定性的効果

＜交通＞歩行者・自転車の回遊性の向上

踏切の除却や矢川駅、西国立駅の立体化等により、南北市街地の行き来が容易になり、歩行者・自転車の移動が円滑化され、回遊性が向上する。

さらに、踏切渋滞が解消されて、バスの定時性が向上する。



上野原第一踏切道の状況



矢川踏切道の状況

3. 事業の投資効果

定性的効果

<くらし> 高架下空間の活用による都市機能の向上

高架下空間を利用した保育施設等の活用による住環境の向上



高架下を利用した保育園(石神井公園付近)



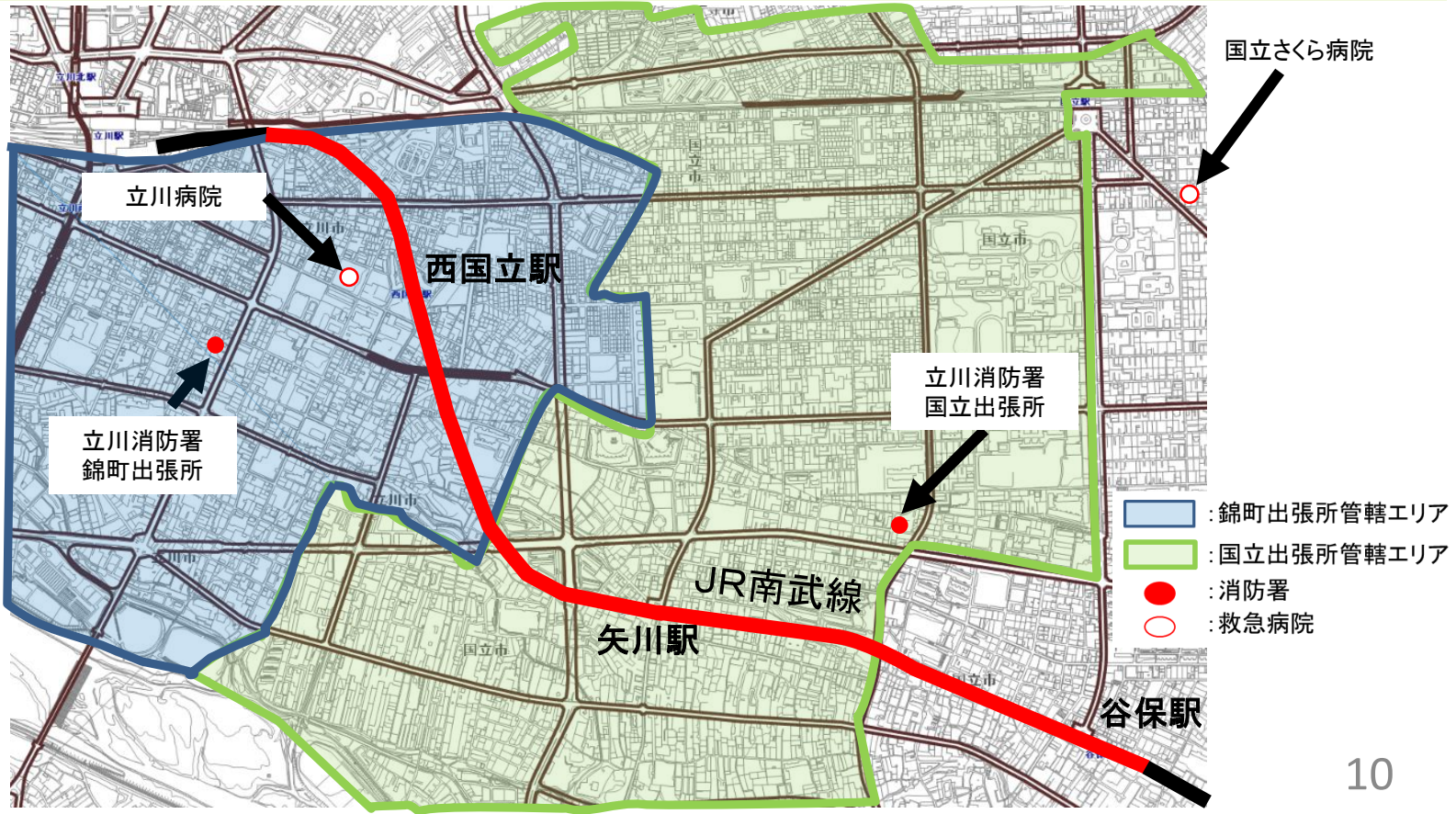
高架下を利用した駐輪場(石神井公園付近)

3. 事業の投資効果

定性的効果

＜安全＞緊急車両のアクセシビリティの向上

踏切の除却により、救急搬送の移動時間の短縮が見込まれる。

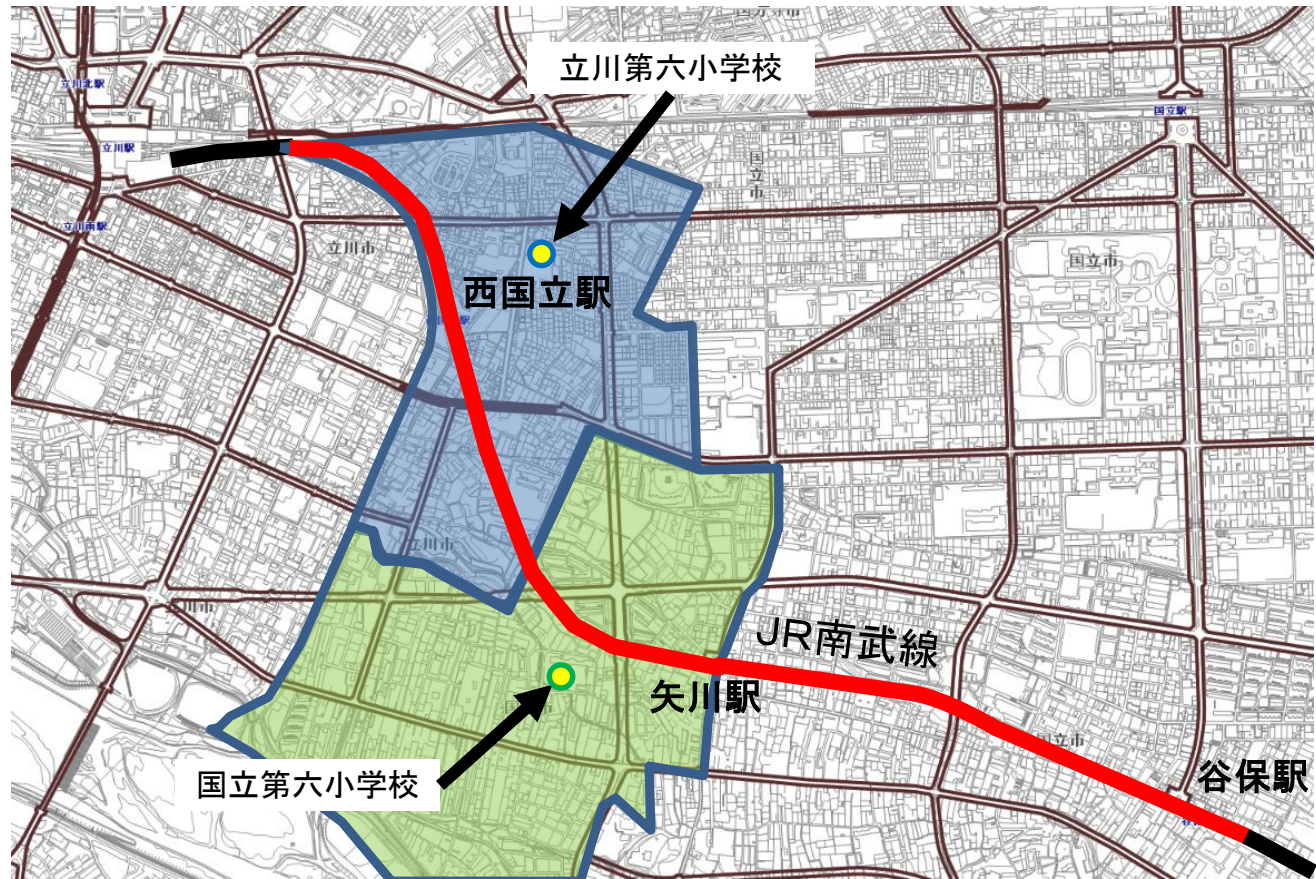


3. 事業の投資効果

定性的効果

<安全> 通学路の安全性確保

踏切の除却により踏切を横断することなく通学できるようになるため通学路の安全が確保がされる。



□ : 学区

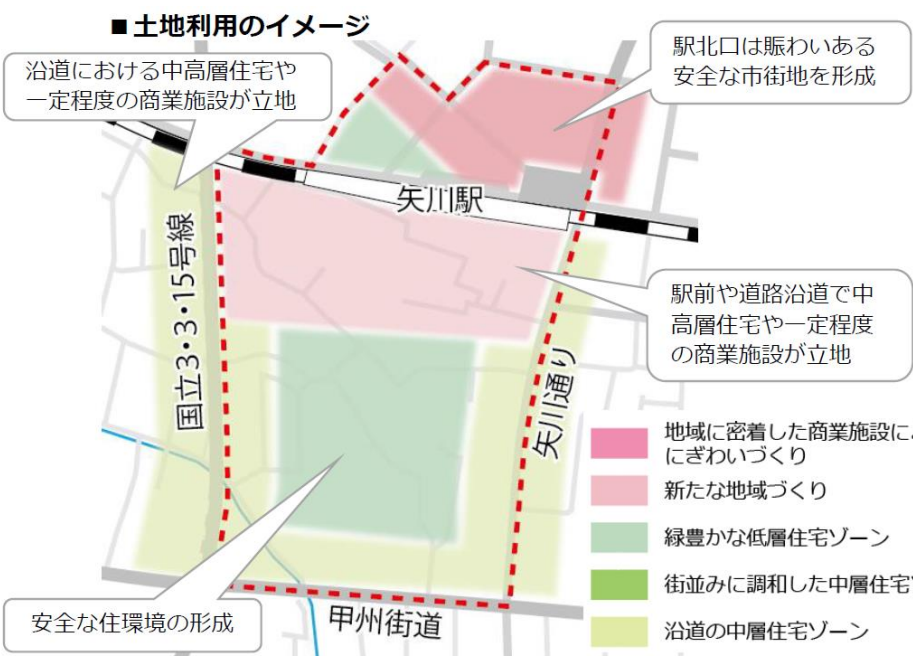
3. 事業の投資効果

定性的効果

<その他> 関連事業

JR南武線矢川駅の立体化に併せた駅前広場の整備、まちづくりに貢献

○ 矢川駅周辺まちづくりのイメージ



○ 駅前広場整備のイメージ

■ 駅前広場の整備の考え方

北口駅前広場【改修】	バス・コミュニティワゴン乗降場の再整備 歩行者環境の改善のための改修
南口駅前広場【検討】	駅周辺で不足する交通機能（タクシー乗降場・一般利用等）の整備 地域拠点に相応しい土地利用の実現



【矢川駅周辺基盤整備計画骨子（国立市：令和5年作成中）より】

3. 事業の投資効果

定性的効果

<その他> 関連事業

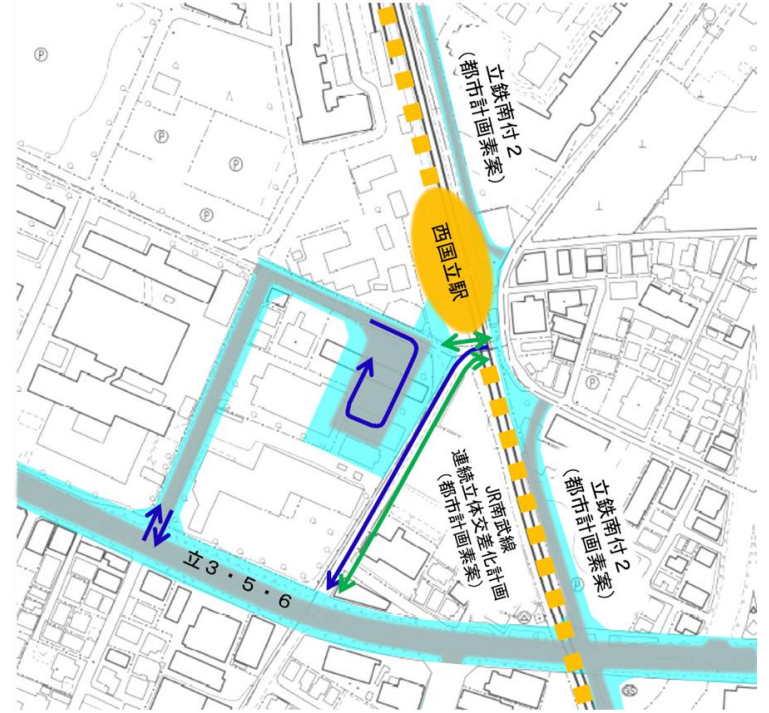
JR南武線西国立駅の立体化に併せた駅前広場の整備、まちづくりに貢献

○西国立駅周辺まちづくりのイメージ



【西国立駅周辺まちづくり構想（立川市：令和4年）より】

○駅前広場整備のイメージ



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号) 5都市基交審第8号、令和5年5月12日
 この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1道路網図を使用して作成したものである。(承認番号) 5都市基街都第34号、令和5年5月9日

【西国立 駅前広場 都市計画素案（立川市：令和5年8月）より】

4. 事業の進捗状況

事業の進捗状況

令和5年8月に都市計画素案説明会を実施。

現在、都市計画及び環境影響評価手続を進めている。

5. 事業の進捗の見込み

事業の進捗の見通し

- ・令和7年度 : 都市計画案及び環境影響評価書案の説明会開催予定
- ・令和8年度 : 都市計画決定予定
- ・令和10年度 : 都市計画事業認可取得予定

6. コスト縮減等

代替案立案の可能性

本事業を事業化するにあたり、鉄道の立体化を高架式、地下式等によって行う場合や、道路を単独で立体化する場合など、複数案で比較検討を行った結果、現在の構造形式及び事業手法を選定していることから、代替案立案の可能性は極めて小さい。

コスト削減の取組

工事を実施するまでに、施工計画などにおいてコスト削減を検討していく。

7. 対応方針(原案)

総合評価

踏切の除却により、交通渋滞や踏切事故の解消及び鉄道による地域分断の解消を図るためには必要不可欠な事業であり、着実に事業を進めていく必要がある。

対応方針案

継続

中止の場合は、事業効果を発現できないだけでなく、国の補助金の返還等の新たな費用が発生する。

さらに、踏切の除却を強く望む地元住民等の期待に応えられなくなるなど、中止による影響は多大。

8. 事業促進への要望(参考) 国立市

要望書一覧

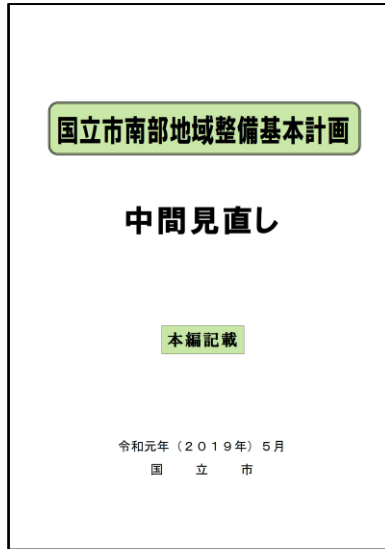
日付	要望先	要望者
平成29年10月31日	東京都知事	国立市議会議員
平成30年2月15日	国土交通省 都市局長	立川市 国立市 連名
平成30年7月23日	東京都知事	国立市長

8. 事業促進への要望(参考) 立川市

要望書一覧

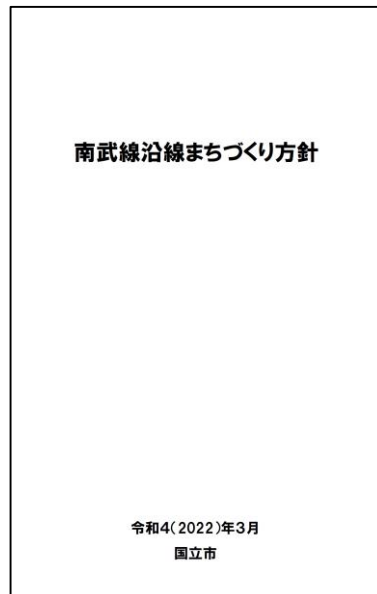
日付	要望先	要望者
平成30年2月15日	国土交通省 都市局長	立川市 国立市 連名
平成30年7月23日	東京都知事	立川市長

9. 周辺まちづくり(参考) 国立市



R1.5 『国立市南部地域整備基本計画 中間見直し』

→ 矢川駅南整備地区のまちづくりについて、JR南武線の連立事業や都市計画道路3・3・15号線の整備事業と連携しながら、地域住民や関係団体と協議・検討を行い、事業実施に向けた取組を進める。



R4.3 『南武線沿線まちづくり方針』

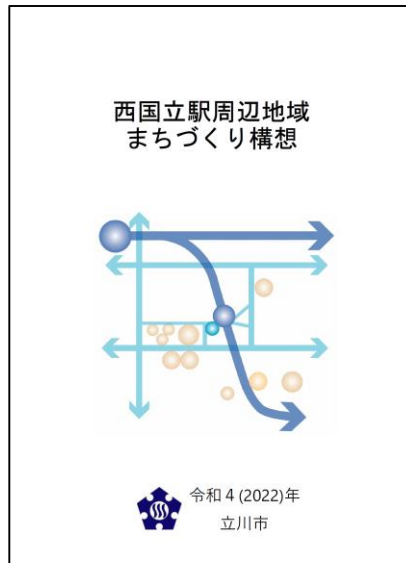
→ 南武線が立体化された後のまちの将来像や方針を示す。
鉄道立体化や都市計画道路の整備とあわせ、狭あい道路の解消や生活道路の整備を進める。

9. 周辺まちづくり(参考) 立川市



H29.6 『立川市都市計画マスタープラン』

- JR南武線の鉄道立体化の促進を図るとともに、それに合わせたJR西国立駅駅前の整備とにぎわいの創出を図る。



R4.3 『西国立駅周辺まちづくり構想』

- JR 南武線の連続立体交差化を促進し、踏切の除却による交通渋滞の解消とともに、鉄道による地域の分断を解消し、安全・安心で一体的なまちづくりを目指す。